

第4回 銚子市総合計画策定「市民ワークショップ」概要

平成29年11月28日（火） 銚子市保健福祉センター2階会議室

今回の市民ワークショップでは、総合計画「基本構想」骨子のたたき台を皆さんにご覧いただき、様々な視点からキーワードや意見を出していただきました。

ワークショップのテーマ

ライフステージ（当事者の目線に立った議論）

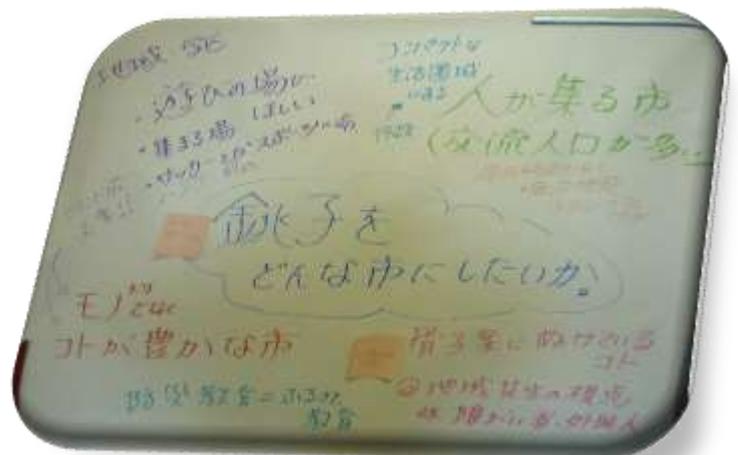
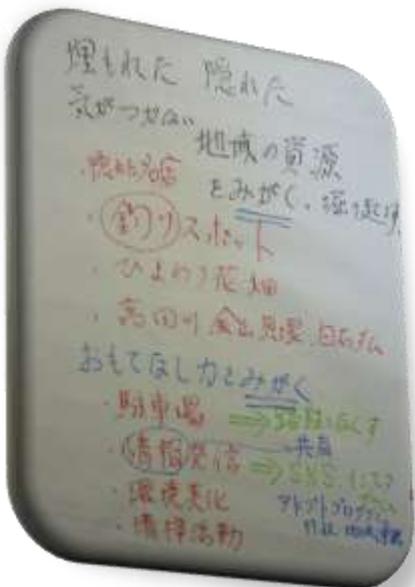
グループ名	テーマ	主要要素	参加人数
グループA	生まれる・育つ	出産、子育て	7名
グループB	学ぶ	学ぶ場、学び方、街の将来	7名
グループC	働く	働き方、地域での生活	7名
グループD	老いる・死ぬ	老後、介護、最期の迎え方	7名

コミュニティ（当事者を取り巻く環境と支え合いをめぐる議論）

グループ名	テーマ	主要要素	参加人数
グループE	家庭・近隣	独り暮らし、近所の支え合い、地縁団体	8名
グループF	学区・生活圏域	地域拠点、地域活動、専門家活動	6名
グループG	産業・自然	経済活動、環境活動	6名
グループH	広域連携	近隣自治体、県・国との関係	7名

55名の皆さまにご参加いただきました。

各グループのまとめ（一部を紹介します）



ワークショップの様子



次回（第5回）市民ワークショップの開催日は平成30年2月9日（金）です。



第4回 総合計画策定「市民ワークショップ」 平成29年11月28日(火)

各グループのワークショップで議論された内容・意見・キーワード

グループA 生まれる・育つ【出産・子育て】

主に「婚活」・「子育て」にテーマを絞り、市長を交えて自由な意見交換を行った。

<p>「子育て」</p>	<p>○お母さんの立場から考えた子育て支援策を行ってほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病児保育 ・ お母さんが具合の悪い時に子供を預けられる施設があると助かる。 ・ 東庄町のような児童館（前回と同様の意見） <p>○ファミリーサポート制度の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子供の面倒を見られる世代 ⇔ 子どもを預けたい世代（社会福祉協議会などが仲介） <p>○絵本図書館を旧八中に設置し、子育て世代のコミュニティとして活用したい。</p> <p>○ジジ・ババ学級の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ジェネレーションギャップ（子育て常識の相違）の解消（前回と同様の意見） <p>○子どもにやさしいインフラ整備を進めて欲しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公園の整備（安心して遊ばせられる公園） ・ 「子どもにやさしい観光地」としてPR出来れば人を呼込むことが出来るかも <p>○イオンを子育ての施設、コミュニティとしてもっと活用出来ないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車場も整備されており、人が集まりやすいと思う。 <p>○子育て関連施設をなんでも自治体単位で整備する必要はないのではないかな。近隣市町との連携を進めることにより、子育て関連施設の相互利用の促進を図るべき</p> <p>○民間会社にも子育てのコミュニティの場を提供してもらえれば。</p> <p>○民間レベルの情報発信の活発化が図れれば良い。（サークル活動等）</p>
<p>「婚活」</p>	<p>○自分は婚活事業を通じて結婚することができた。結果として市外からの移住にもつながった。今般、簡単に結婚できる時代ではなくなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 婚活等の支援も必要ではないか。 <p>○出会いの場を作っていくことは重要。合コンなども積極的に実施するべき。</p>
<p>その他意見等</p>	<p>○行政サイドから子育て部門の担当者が参加したほうが良い。子育て環境の現状や将来の展望が把握できないと、議論が発展しない。 （行政がすべきこと、協働ですべきこと、市民がすべきことの分担が難しい）</p>

グループB 学ぶ【学ぶ場・学び方・街の将来】

これまでに出示された意見をもとに、銚子市の将来を見据えての「学ぶ」について意見交換を行った。（第2章まちづくりの視点と方向性（2）学ぶ）

<p>行政施策の視点 について</p>	<p>○「生きる力」を育む幼児教育、郷土に誇りをもって成長できる学校教育、質の高い高等教育に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生きる力」は幼児教育だけでなく生涯に渡って必要。 ・学校教育は初等、中等教育では。 ・質の高い教育とは？ → 教材等の質？ <p>○市民が生涯にわたって学べる体制づくり、スポーツ・レクリエーション活動の普及、大学を生かした地域づくりに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学んでまちの将来につなげていく
<p>市民参加の視点 について</p>	<p>○家庭は教育の原点であり、出発点であるとの認識の下、教育支援を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の原点である家庭では・・・の方が良い？ ・教育支援とは？（具体的に） <p>○学校・家庭・地域が一体となった青少年健全育成活動に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「一体」を「連携を密にして」の方がよいのでは？ <p>○市民の文化・芸術活動・ジオパーク活動を促進する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ喜び、挑戦する力
<p>自由意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の文化、芸術活動、ジオパーク等の観光資源について、学ぶことが成長につながる。 ・銚子らしさ（気候、地形、活気等）を具体的に発信していく。 ・生涯に渡って学んでいける体制作り。 ・「生きる力」生涯に渡って必要である。 ・銚子ブランドにプライドを持つ。 ・学んだこと（調査、研究、発表）を外へ広く発信していく。 ・グローバル人材の育成。 ・教育格差、いじめのない教育現場。

グループC 働く【働き方・地域での生活】

銚子市総合計画基本構想骨子（案）第2章のまちづくりの視点と方向性に書かれている（3）働く をもとに、話し合った。

<p>「働く」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の承継について創業も必要だが、現在ある事業・店舗を残すことも重要 ・異業種の事業所が話し合いの場を持てるような仕組みがあるとよい。発信する場所が必要である。異なった事業者が協力することにより、新たな商品開発につながっていくのではないか。 ・新しい意見や、各イベントを「つなぐ」ために銚子以外のひと、第三者を受け入れる体制作り。協力したいと本心では思っているも銚子市民はなかなか言い出せないのが、橋渡し役の第三者がいてほしい。 ・UJ ターンを希望する若者もいる。しかし、資格があっても銚子に勤められ
-------------	---

「働く」	<p>ない。都会の方が、給料も高いし、対応する客体数が多いので自分自身のスキルアップにもつながる。その点を補完できればいいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントを定期的で開催する（回数を増やす）。リピーターの確保。回数を重ねればイベントスタッフも慣れ、スムーズに開催できるようになる。 ・農産・水産関係が協力した形でイベントを開催できるとよい。 ・イベントで売られたものを他の時にも買えるようにしてほしい。 ・高齢者向けの求人情報の発信。 ・空き校舎を利用したコールセンターや物流拠点の誘致。
------	---

グループD 老いる・死ぬ【老後、介護、最期の迎え方】

高齢者の置かれている現状について意見交換を行った。

高齢者の置かれている現状	<ul style="list-style-type: none"> ・今の自分を基準に考えるのではなく、「親」「祖父母」はどうか、という視点で考えるべきではないか。 ・連携と言ってもなり手がいない。民生委員のなり手がなく、高齢化している。 ・今までのやり方が今後可能か。目を向けてほしい人に目が向けられているか。 ・民間と行政をすり合せて、現実的にしていけないといけな。 ・市民のセーフティーネットを一番重視すべきだと思うが、現状維持もままならない状況。 ・支える仕組みが崩壊してしまうのではないか。 ・介護保険制度が導入されて10年以上経つが、知らない人がいるのが残念。（知っていれば、介護離職を防げたという残念な話もある。） ・ケアマネジャーは民間と行政の間に立ってくれるが、介護者は現実には何が必要なのかきめ細かく見ていけると必要なものは見えない。それが見える人が増えていけるといけな。 ・行政は制度をPR する必要がある。 ・独身者が離職せず、どう介護していくか。 ・高齢者と幼児の施設を近くにす。その場を行政が作っていくべき。 ・元気な方とそうではない方の両方がいる。理想を語ることは良いが、そうではない方の対応を忘れないように。 ・運転免許を返納した人が銚子で人間らしい生活ができているか。 ・仕方なく運転している人もいる。その人たちの支援を。（いかに安全に生活を成り立たせるか。） ・スーパーも大型化し、商店街もない。 ・祖父が認知症。祖母や母方の兄弟が対応しているが、どういうところに相談に行けば良いか分からない可能性がある。 ・ケアマネジャーなど関係者は最新の情報を得る努力をしてもらいたい。 ・万が一の時にどうするかが分からない人もいる。
--------------	--

<p>高齢者の置かれている現状</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口の PR、関心を持ってもらう。市民は自ら情報などを集める積極性が必要。 ・介護・医療がつながっていないので、つなげていかなければいけない。 ・今のままではバラバラなので、この点は言い続けていかなければいけない。 ・市立病院のあり方を考えなければいけない。総合診断医やリハビリの充実など、市立病院ならではのものがあると思う。 ・こうして欲しいという要望よりも、外から良くする方が良いと思う。経済的、金銭的な問題から解決していく方が良いと思う。 ・移定住を増やし、人口減少を抑えるには環境づくりから入った方が良いと思う。(街なかのバリアフリー化を進めて欲しい。) ・外から高齢者に来てもらう。高齢者を移住させるのも一つではないか。 ・銚子は気候が良いと思う。雪が降らないことが利点。 ・東北(山形)では学生の雪降ろしボランティアがある。 ・介護や清掃でボランティアが増えたらいいと思う。 ・ボランティア集約サイトがあればよい。 ・気軽にボランティアできたらよい。 ・市のホームページで中高生向けに PR すると有効ではないか。 ・してほしいこと、したいことのマッチングできたらよい。
---------------------	---

グループE 家庭・近隣【独り暮らし・近所の支え合い・地縁団体】

銚子市総合計画基本構想骨子(案)の内容について議論を行い、キーワードを出し合った。

<p>銚子市総合計画 基本構想骨子 (案)について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市の方向性を明確にした計画(指針)にしてほしい。 (市も市民も相互に方向性を確認できる内容) 第1部 総論 第3章 まちづくりの課題～自治体の再構築に向けて～ ・銚子市の「危機感」についての記載が不足している(危機感をベースに) 第2部 基本構想 第1章 まちづくりの基本指針～未来につなぐ～ ・1番に「市民自治」に関する記載があって非常に良かった ・市民が主体であることを強く謳ってほしい(行政は補完する) 2 まちづくりの「ちから」 ・物：<u>持続的発展</u>という表現について、現在も発展しているように受け取れる。 第1章を踏まえて第2章の構成を考えていく。 ・全体的に「市民」の主体性が前面に出るような計画にしてほしい。 (記載する順序など)
<p>キーワード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・理念はOK、仕組みづくり ・危機感をベースに次のステップへ ・良い意味で「火種」を育てる ～自発的な市民を育てる～ ・若い人を巻き込んでいく仕掛けづくり (ダムMAPづくり ⇔ 学生のIT技術)

キーワード	<ul style="list-style-type: none"> ・多世代の知見を持ち寄る機会をつくる ・行政には道をあけてほしい ※市と市民をつなぐ役割をしてほしい ・市のコンパクト化 ・学区の見直し（エリア感） ・佐原一銚子 広域連携 ・近隣市町村より多くイベントを実施しているが、効果検証しているか ・イベント等に企業の動員があると心強い （トップダウンで市と協働する旨方向性を明確化） ・見える化、すぐやる化
-------	--

グループF 学区・生活圏域【地域拠点・地域活動・専門家活動】

「骨子案に盛り込みたいこと」や「銚子をどんな市にしたいか」を中心に議論を行った。

骨子案に盛り込みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者や外国の方など、様々な方が銚子で生活しているため、骨子案には「地域共生社会」といった、多種多様な人に対応する視点を盛り込むべきである。 ・単に障害者等に対する支援策だけではなく、どのように社会の中で共生していくのかを考える必要がある。
銚子をどんな市にしたいか	<ul style="list-style-type: none"> ・銚子をどのような市にしたいかといった“骨”（ビジョン）があつてこそ、そのためには学区や生活圏域にはどのようなモノ、どのようなコトがあつたら良いのか、また、どのように銚子で生きていきたいのかを考えることができる。 ・地域活性化のためには、人口の増加ではなく、交流人口の増加による他地域からの消費の呼び込みを行ったほうが効果的（現実的）。 ・銚子には既に“モノ”（漁業、農業、災害に強い、良好な気候…）は揃っているため、銚子に人を呼び込むためには、魅力的な“コト”が豊かな市にする必要がある。 ・将来の人口減少を踏まえて、学区と生活圏域はコンパクトにしたほうが良い。 ・銚子に住む人が、銚子をより理解するためには教育にも力を入れる必要がある。特に、地域の災害を学ぶことは、その土地を知ることにつながり、郷土を考えるきっかけとなることから、防災教育に力を入れてはどうか。 →交流人口の増加による“外からの働き”と、行政主導のコンパクトシティ化による“中での働き”によって、銚子で暮らす多種多様な方が、より“濃密”な暮らしを送れるようになる。

グループG 産業・自然 【経済活動・環境活動】

銚子市内における関心ごとや、まちづくりの視点から観光について議論を行った。

<p>「釣り」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・神栖市から友人を呼び、銚子市内で釣りをする。 (銚子の方が釣り場も多くあり、良く釣れておもしろい。) ・“外道釣り” 狙った魚でないものが釣れるのもおもしろい。 ・釣りを趣味とする人が外来種（ブラックバス、ブルーギルなど）を放流してしまい、釣り客が多くなるが、やってはいけないこと。 ・他市では、市民団体がルールづくりや釣り公園（スポット）を作った。
<p>「駐車場」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・銚子市内には観光客用の駐車場が少ない ・渡船場だったところを公園ではなく駐車場にするべきだった。 ・神社めぐりをするのだが、どこの神社に行っても個人や公共の駐車場が整っているの、銚子市は受け入れる体制づくりが必要。
<p>「観光」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・菅原大神（子宝石）の参加者 300 組＋親や子ども約 1,000 人が観光や宿泊をしてくれば大きな収益となるのでは。 ・御朱印めぐりがおもしろい（同じ神社でも書いてくれる人が違うとまた違った雰囲気を楽しめる）女性はノートに集めるのが楽しみ。 ・外から見ても（市外出身）銚子の情報発信の少なさを感じる。 ・キャベツを作らない時期のヒマワリ畑を観光客が写真を撮っているシーンを見たことがある。人を集める力があるのではないか。 ・歴史と自然がつながればロマンを感じる。 ・歴史を感じながら銚子を観光してほしい。詳しく知らない観光客は、あるスポットだけ見て帰ってしまう。高田川・余山貝塚・白石ダムなど魅力的な場所は多くあり、歴史を知ることで更に楽しむ事ができる。 ・チバニアン（千葉時代）に銚子も乗っかれないものか。 ・銚子にもジオパーク（地層など）があるが人が来すぎていたずらされてしまうのではないかと心配する面もある。 ・空いた農地を借りアヤメを植える。（少しずつでも民間が動かないとダメ） <p style="text-align: center;">↓</p> <p>“埋もれた・隠れた・気がつかない” 地域の資源を磨く（掘り起こす） “おもてなし力” を磨く</p>
<p>その他意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・隠れた名店などを情報発信したらおもしろい。 (個人情報保護などもあり、良いこと悪いことの判断が難しい) ・まちの話題を広げるためには、金融機関も大事なツールとなる。 ・旅館業（色々な業種）の方にもワークショップに参加してほしいと感じる。 ・初回のワークショップにも参加したが、参加者が減っている。 (銚子の人の気質か?) ・最終的に市に頼りたいという思いがある。 ・基本構想骨子（案）の内容が難しい。もっと具体的に書いてあると良い。

グループH 広域連携【近隣自治体・県・国との関係】

これまでの意見を踏まえ、まちづくりの視点・大きな方向性について意見を出し合った。

<p>行政が 行うべきこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の公共施設（体育館・図書館・文化会館等）については、老朽化が進んでいる。これを銚子市単独でまた建設するのは現実的ではないため、近隣の施設を合同で管理し、使用させてもらう。その際の料金設定については、一律にってもらう。 ・病院について、銚子市内には個人病院も多数あるが、産科など少ない診療科も多くある。今現在、医療については広域化になっているが、今後一層の広域化を図る必要がある。 ・高等学校についても、医療と同様に現在広域化となっている。これからは、学科の配置も考えた上で必要数を確保していく必要がある。 ・神栖市の保育園は待機児童が多く、銚子市でカバーするなどの対応も出来るのではないか。
<p>市民・地域が できること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観光PRとして、千葉科学大学の留学生に自国へ『銚子のいいところ』を発信してもらい、観光に来てもらう。 ・みこしパレードの一基を外国人専用のみこしとして仕立てて、日本文化を体験してもらう。 ・スポーツ・文化的なこと（カラオケ大会など）であれば広域での連携が可能である。
<p>協働で できること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観光については、日本遺産の北総四都市がすでに広域連携となっている。しかし、四都市を繋ぐ観光ルートの周知や、バスツアー等ができていないため、その部分を推進する必要がある。

第4回市民ワークショップ講評

千葉大学 関谷教授

皆さんお疲れさまでした。

初めて参加された方、継続して参加いただいている方など、それぞれいるかと思いますが、議論を蓄積していくことがとても大事だと実感しています。皆さまはどうでしょうか。最初はそれぞれが思っていること、言いたい事を言い合っているところが比較的多かったかもしれませんが、数を重ねると色々な論点が集約され、やってみたいと思うことがうまく結びついてきているのではないのでしょうか。

まだまだ結論が出ているわけではないと思いますが、少しずつまとまりが出来ているのではないかと思います。

ワークショップを行う中で、改めて大事な「キーワード」や「視点」を出していただいていると思う。先ほどの発表でも、障害者や外国人といった多様な立場、共生の視点が抜けているのではないかといった意見があったが、全くそのとおり。まだまだ柱の段階でこの後、素案となり更に肉付けを行っていく中で、配慮していく必要があります。

「働く」という言葉ひとつをとっても、若い人たちが働く場をどのようにして銚子で作るのか。また、環境や働き方の多様性などが今言われていますが、銚子で働く多様な働き方とはどんなことなんだろう。ということになれば、もっと掘り下げられる。

掘り下げられて、環境も整って、やっと銚子で働いてみようかなと思う。そうなれば市外の人や銚子から出ていった方なども関心を持つ。

そういった観点からも「深掘り」を引き続きやっていくことが大事かと思います。

事業をされている方々の危機意識、あるいは市民にせよ行政にせよ覚悟が必要である。他には、地域の色々な資源を磨く。「磨く」ということは、皆さんが銚子における感覚の中で、色々な資源をイメージされていて、その資源をどうやって引き出すのか、どうやって磨けるのか、イメージを色々お持ちかと思います。「磨く」は言葉では簡単に聞こえるかもしれませんが、これからのまちづくりでは「磨く」も一つのキーワードになってくると思います。

こういったことをどのように引き出していけるかが、総合計画づくりの大事な役割になると思います。

冒頭にも確認しましたとおり、今年度は基本構想の部分のある程度の形までもっていくということで、本日は基本構想の骨子となる部分を確認いただいたので、次回のワークショップでは、この基本構想に肉付けをした素案を提示させていただきたい。

肉付けというのは、行政が行う部分とワークショップを通じて議論として出していたこと、これらをカテゴライズしながら、こういう部分をここに盛り込みますよといったような「可視化」しながら、肉付けを進めていこうと思います。

市民の皆さまのこういう所を重視したい、こういうアイデアを持っている、などを可能な限り基本構想として盛り込んでいき、次回の素案提示に向けて引き続き作業を行っていきたいと思います。

今後のまちづくりとして、どういう体制のもとにやっていけば良いのか、色々な人が色々な力を発揮すれば、たくさんアイデアが出る。しかし、今の環境ではそこがなかなか引き出されない。なかなかつながらない。市民と行政の協力とよく言われているが、どういう体制、どういうプロセスを踏めば、その連携が深まっていくのか。こういった点をしっかり考えていかないと、連携、協力、協働と言っているだけでは、前に進まないと思います。どんな関係やどんな仕組みがあるとこれまで挙げてきた意見が具現化されるか。この辺も踏まえ肉付けできると良いと思います。

次回ワークショップの日程については、本日お伝えできませんが、なるべく早めに設定したいと思います。また、基本構想骨子（案）が当日配布になってしまいましたが、なるべく読んだうえで参加いただきたいので、そのへんは事務局と相談して、最良の方法を考えたいと思います。

役所の内部でも職員の方々に色々と検討してもらい、それを次回、素案として提示して、色々な意見をいただいて、それをまた反映させる。キャッチボール的な事を更に意識して素案づくりを練っていければと思います。

基本計画づくりが来年度より本格化されますが、これに向けてどの様にこの作業を続けていくのか。そのやり方などを次回のワークショップで、皆さんに提示することができると思います。

基本構想づくりについては、ワークショップを重ねてきましたが、この後は、もっと色々な意見を集めたり、提案をしてもらったり、市内の専門家であったり、活動をされている方々の声を聴き上げるなど、様々な手段を使い基本計画としての肉付けを図って行ければと思っております。

いずれにしても、今回は、素案をご覧いただきながら、更に「深掘り」の議論ができると良いのかなと考えております。